

## 審査結果

全日本画材協会主催「第4回 Jam 公募展」は、11月15日に応募が締め切られ、全国から331点の作品が寄せられました。12月11日に厳正なる審査が行われ、50点が入賞し（次ページ表参照）、その中から大賞1点、審査員特別賞（大賞に匹敵する優秀作）5点の受賞が決定、また53点が入選を果たしました。

（審査委員長：川見良夫（全日本画材協会会長） 審査委員：弓手研平（画家・一水会常任委員）、nao morigo（画家）、全日本画材協会常任理事7名）

### JAM大賞

上村幸平『富有の里』



### 審査員特別賞

吉川祐子『加太浴線(和歌山市)』



### 審査員特別賞

多田朱里『眺め』



### 審査員特別賞

中谷春光『帰り道』



### 審査員特別賞

加藤千世子『静かな時間』



### 審査員特別賞

山口潔子『先斗町歌舞練場』



# 審査結果

## 「第4回Jam公募展」入賞者

賞	氏名	作品名
JAM 大賞	上村幸平	富有の里
審査員特別賞	吉川祐子	加太沿線（和歌山市）
審査員特別賞	多田朱里	眺め
審査員特別賞	山口潔子	先斗町歌舞練場
審査員特別賞	中谷春光	帰り道
審査員特別賞	加藤千世子	静かな時間
メーカー賞 (44作品)	アコ・ブランズ・ジャパン 賞	佐藤ノブ子 伊豆沼の日の出
	アルス色彩工業 賞	山下恒夫 郷愁の川内湾
	アルテ 賞	新土和彦 中小阪の夕暮れ
	伊研 賞	中村幸彦 路地裏
	一休園 賞	高柳剛士 田舎道
	USUI BRUSH 賞	山崎雅可 石仏の祈り
	上羽絵惣 賞	岩田規子 佐鳴湖畔
	王冠化学工業所 賞	舩井移津子 交番の明かり
	オリジン 賞	中川淳子 暮れ泥む（くれなずむ）
	吉祥 賞	机貞代 蔵
	クサカベ 賞	田川博 錦秋の神鍋高原
	彩画堂 賞	永井適 お焚き上げ
	サムトレーディング 賞	市瀬美穂 Swing—能古島—
	新日本造形 賞	和辻保 櫻
	大日本美術工芸 賞	福田香代子 幸福駅へ
	田中金華堂 賞	森田信子 錦秋佐鳴湖
	ターナー色彩 賞	野田真章 灯台のある風景
	谷口松雄堂 賞	松倉朝子 仏緑
	ターレンスジャパン 賞	乾しようこ じゃんじゃん横丁
	チャコペーパー 賞	鴨井清 中田島 砂丘
	デリーター 賞	羽尻真奈 上七軒にて
	同志舎 賞	齋藤洋子 とくべつな時間
	ナカガワ胡粉絵具 賞	島田貴代子 オランダ坂界限
	中里 賞	知久輝 映す
	那須野画材工業 賞	安間広子 暁彩天竜川
	名村大成堂 賞	渡邊三次 郷愁
	ニッカー絵具 賞	宮脇太祐 加古川水管橋—故郷 カケル 橋—
	日本色研事業 賞	黒柳満 奈良井宿
	パジコ 賞	丹羽智美 岡崎 徳川家康公
	バニーコルアート 賞	奥野奈緒子 霧積る湖
	バンコ 賞	今井百合子 街でいちばん古いパーマ屋さん
	美術出版エデュケーションナル 賞	大野景子 夕暮—何かがやってくる
	福岡工業 賞	佐藤哲哉 カモメの止まる橋
	文房堂 賞	田中喜代次 マリゾン夕照
	墨運堂 賞	今村紀代子 港のある町
	ホルベイン画材 賞	宮本浩子 オランダ通りのカフェ
	ホルベイン工業 賞	仲村理恵 home town
	松田油絵具 賞	杉浦和彦 水辺の小さな美術館
	マルオカ工業 賞	白濱政彦 路地裏の花屋
	丸善美術商事 賞	北本美香 風の道
	マルマン 賞	三浦啓子 雪の朝
	道刃物工業 賞	稲垣寿雄 夜明け
	ミューズ 賞	片山亜幸 北緯43度・冬
	ラーソン・ジュール・ニッポン 賞	石崎将浩 再生



# 審査結果

## 「第4回Jam公募展」入選者

居村倫也 相川美奈子 西村恵子 木村智恵美 長元五志 松井正幸  
 出田英子 池田泰敬 杉山光包 竹内康晃 早川他千子 種口康生 轡田映子  
 富樫茂治 大門清廣 山野文睦 山下彩奈 岡川夕美子 對馬基起 渡邊士郎  
 中江和修 清水昭八郎 加藤昌男 山内沙恵子 木村葉子 小出都美  
 武田十四夫 前田量子 山本裕子 小島琴江 清水敏男 池澤美里 藤田健一  
 坂本ゆみ 浜中聡 中山郷士 松尾正直 栗林照一 渡辺啓子 朝倉悠三  
 平井佳子 坪島輝明 渡邊照夫 柏倉学 村山茂夫 新庄憲彦 国光美津恵  
 亀岡早百合 西本富雄 小村春江 津久井陽平 長島美津子 青木順子  
 (以上 53 名・順不同)

# 入賞作品展

「第 4 回 Jam 公募展」入賞作品展を下記の通り開催、全国の全日本画材協議会会員店のギャラリーを巡回いたします。お近くの会場では是非ご覧ください。会場の住所・地図は全日本画材協議会のサイト「絵を描く.com」(<http://www.eokaku.com>)でご確認ください。なお、展示内容については各店舗にお問い合わせください。

会期	会場 (場所 電話)	開廊時間	休日
2019年 1月10日(木)~1月26日(土)	ホルベイン・ギャラリー (大阪市中央区 Tel 0120-941-423)	11:00~18:00 (最終日15:00)	日曜・祝日 1月19日(土)
2月4日(月)~2月9日(土)	文房堂ギャラリー (東京都千代田区 Tel 03-3291-3445)	10:00~18:30 (最終日16:00)	無休
2月21日(木)~3月2日(土)	GALLERY SHIRAISHI(白石画材) (和歌山県和歌山市 Tel 0734-22-5700)	10:00~17:00 (最終日15:00)	火曜
3月9日(土)	2019 TOKYO画材ショー (東京都豊島区 Tel 090-9049-7770)	10:00~16:00	
3月14日(木)~3月24日(日)	ギャラリー・アートフォース(八戸彩画堂) (青森県八戸市 Tel 0178-24-4222)	10:00~18:00 (最終日17:00)	月曜
4月3日(水)~4月15日(月)	中井三成堂画廊 (兵庫県姫路市 Tel 0792-82-1575)	10:00~19:00 (最終日15:00)	火曜
4月23日(火)~5月5日(日)	art space定禅寺ギャラリー(えかきや画材) (宮城県仙台市 Tel 022-225-7647)	10:00~18:00 (最終日15:00)	無休
5月10日(金)~5月24日(金)	ひまわり画材 (埼玉県新座市 Tel 048-480-5747)	10:00~20:00	無休
6月7日(金)~6月12日(水)	スズカ画廊 (三重県鈴鹿市 Tel 0593-83-2961)	10:00~18:30 (最終日18:30)	木曜
6月21日(金)~6月30日(日)	井ザワ画房 (福井県福井市 Tel 0776-33-5380)	9:00~19:00 (最終日17:00)	第3日曜
7月5日(金)~7月10日(水)	ギャラリー亀齡(キレイ堂) (富山県富山市 Tel 0764-25-2875)	9:00~19:00 (最終日17:00)	無休
7月19日(金)~7月30日(火)	スペースねずみ穴(白木屋) (栃木県宇都宮市 Tel 0286-33-3258)	9:30~19:00 (最終日18:00)	水曜

## 審査評

審査にあられた弓手研平、nao morigo 両氏から「審査評」をいただきました。

### 弓手研平 (ゆんで けんぺい/画家・一水会常任委員)

#### 画材の楽しさと共感性

絵を楽しんで描く人が気軽に挑戦できる「Jam 公募展」は、いかに観る側と共感性があるかという点も重要だと思う。

4年目となり、これまでの「Jam 公募展」を観てこられた方や新規の方が、それぞれの視点を工夫され表現の幅が広がってきたように感じた。同時に、完成度の高い作品も増えている。

今回受賞された方々全般に興味深い点は、画材のジャンルが広がっていること、そしてその使い方が手慣れ且つ楽しんで描いておられること。やはり、絵を通して「みんなに知ってほしい地元の風景」というテーマは、技巧的になり過ぎては伝わらないし、説明が過ぎてはよくない。そもそも画材を使って描く楽しさは、技術の前に感動を伴わないと共感性は生まれない。

大賞の上村氏「富有の里」は、木々のフォルムに独自の色彩感覚が響き合い、伝えたい里の富んだ印象を観る側に共感させてくれる。そして、審査員特別賞が5点と増えたのは、出来映えはもちろん、画材の魅力に共感させられる作品が多くあったこと。身近なペンやマーカーといった文具的画材を取り入れ密度濃く表現する楽しさ。和紙を見事な抽象感覚で空間演出されているセンス。日本画材ならではの輝くような絵肌が生まれる楽しさ。油絵具の力強い発色と筆致から感じる作者の感動。オイルパステルの柔らかな混色と温かい手触りなどなど。

「Jam 公募展」から発信している「絵を描く楽しさ豊かさ」の一つは、現代の進化した画材の魅力と手軽さをより多くの方々に共感していただきたいということ。その上で、今展は表現の幅が広がっている実感がある。更に期待したいことは、現場の感動を観る側により共感させてほしいこと。



### nao morigo (なお もりごう/画家)

全ての作品が本当に素晴らしく、審査員一同頭を抱えながら毎年審査を行っております。

今年は昨年に増して幅の広い表現を拝見致しました。アートの可能性を広げるべく様々なタッチを選びたいと、協議会の皆様に無理を言い受賞者の数を増やして頂きました。

アートの大切な部分は、「ヒトの心に響くもの・見ている人達が絵の中に入り込める世界観」だと考えております。

「基礎的なスキルをベースに持った方が、いかに独自の世界観を織り交ぜながらその場の雰囲気表現しているか。」を評価しています。

絵が額から外れて審査からはじかれてしまったものや、スキルはあっても情緒が物足りない物、額装とアンバランスなど、素晴らしい中にももう一押し！と言った作品が沢山ありましたので、来年も懲りずにチャレンジして頂きたいと思います。



2018年12月11日の審査風景

